

14:00~15:00

キャリアアップ委員会セッション：男性医療従事者の立場から男女共同参画を考える

座長：日比野 直仁（徳島県鳴門病院 手の外科センター）
長尾 由理（倉敷中央病院 形成外科）

CS-1 育児休暇取得と職場環境について

Taking childcare leave and working environment

田中 公輔

兵庫県立加古川医療センター リハビリテーション部

作業療法士として勤務11年目に、次男出生のタイミングで育児休暇を6ヶ月間取得することになりました。妻は病院勤務の薬剤師で、長男出産後の育児休暇2年目でした。私の職場は急性期病院の為、救急病棟における早期離床や様々な術後急性期リハビリテーション業務に従事しておりました。その中で育児休暇取得後、職場復帰し現在に至ります。男性の育児参加について自分の経験を踏まえてお伝えしたいと思っております。

CS-2 勤務医、育休をとる～メリットと職場への影響、キャリア形成について～

Advantages and disadvantages of taking childcare leave as a male doctor.

小川 佳士

公立昭和病院 整形外科

育休を取得したことで身体的、精神的に疲弊した妻の負担軽減ができ、私も父親としての自覚を促され夫婦間の絆は深まったと感じた。一方で手術数、入院受け持ち数の推移を見ると上司・同僚の負担が増えていた。医師に限らず女性のキャリア形成という点では、我々整形外科のように男性が多い職場こそ、男性育休が気軽にとれる環境を作ることがパートナーの女性の早期復職につながると考える。

CS-3 キャリアアップと両立できる持続可能な育児体制構築に必要な意識改革

A mindset change is necessary to build a sustainable childcare system that is compatible with career advancement.

佐々木 薫, 大島 純弥, 吉武 彰子

筑波大学 医学医療系形成外科

女性のキャリアに関わる育児問題の解決に必要なのは短期の育休ではなく家族の協力を基にした持続可能な育児体制である。仕事のエフォート率の下がる育児期間はキャリアに負の影響を及ぼす可能性は否めないがキャリアアップは可能である。そのためには医局には働き方の多様性を認める寛容さと環境整備、男性側の育児参加、女性側には早い段階から育児を任せることで育児参加する男性の意識を変えることが重要である。

CS-4 女性心臓血管外科医がキャリアを犠牲にしないための夫の役割

The role of husband for supporting his wife as a cardiovascular surgeon not sacrificing her carrier

圓尾 明弘

はりま姫路総合医療センター 整形外科

心臓血管外科医の女性医師がキャリアを犠牲にしないためには、出産、育児に伴う様々な家事のうち、外部委託できるところは最大限に利用して、残りを夫婦で分担するが必要となる。保育園の送迎や弁当朝食の準備は、事前準備で時間短縮を行い緊急時は友人を頼って対応したが限界もある。そのようなニーズに応えるサービスの拡充が望ましいと思われた。